

事業報告書

事業結果の概況と運営状況

入園児童も定数(95人)を上回り、収容面積で許される範囲で受け入れを行い月平均107名であった。園児たちは園施設および保育用品を活用、保育園生活を生き生きと送ることができた。

平成19年度から3歳4歳5歳児の完全異年齢保育に移行し、本年度は9年目であったがさらに子どもたち一人ひとりに対して丁寧に、優しく関わり、子どもたちの生活時間の大部分を安心して、楽しく過ごせる場所になるように努めた。

保護者のニーズ、時代の要請にあった保育とはなにか・・・毎日が模索であるが園長以下全職員が年間を通じ計画的にあらゆる機会を通じて研修し、資質の向上に努めた。

地域子育てひろばについては15年度目となり、週2日(火・金)として地域はもとより市内多方面からの利用者の来園に供した。園長以下全職員が、利用者の相談にのり子育ての不安をできるだけ取り除くため鋭意努力した。また、本年度も年間を通じて保育士、看護師および栄養士による講座を行い利用者の子育ての一助に供した。子育てひろばからの入園者も増え園生活を楽しんでいる。

青梅市の子育て支援事業実施業務委託を市内保育園で唯一受託し、近隣の自治会館を使用しての業務を平成20年から開始した。週3日(月、水、木)として、地域の子育て支援に貢献した。昼の広い空間で利用者がゆったりと過ごせ、また玩具の充実に努めた。

平成26年度は、東京都が推進している「第三者評価」を受審(株式会社 学研R&C)した。

(調査結果別掲)

理事会、理事長の意向を充分理解し、限りある予算を執行するについて、園長をはじめ全職員がその重要性を認識し、鋭意工夫を行い、効率あるものとした。

日常の保育をより良いものにしていくため、園長の指示に従い職員全員この一年間、保育の向上、充実に計ってきた。結果保護者との信頼関係性も良く、子どもとの関係性においてもより良好となっている。